

私たち夫婦は日通・大手町旅行支店主催、「天文ガイド」・「子供の科学」協賛のメキシコ日食ツアーCコースに参加した。このコースを選択した理由は、観測地がバハ・カリフォルニアであること（晴天率が圧倒的に高く、皆既継続時間も長い!）、メキシコ中央高原の観光も含まれること（晴れない場合の保険!）、天文雑誌が協賛していること（取材も行なわれるため中味がしっかりしている）の3拍子がそろっていたからで、一昨年秋のツアー発表時すぐに申し込み手続きを完了していた。

さて、私たちのツアーはA・B・Cコース合計約70名から成り、バハ・カリフォルニアでの滞在を共にした。7/8昼に Losからのチャーター便でLa Paz入り、ホテル Gran Baja に4泊した。このホテルはLa Pazの街の中心から2~3km南西の海岸に位置し、La Paz湾ごしに黄金色の道をつくって没してゆく夕陽を眺めることができた。La Pazの街はとても美しく、また想像していたよりも大きな街であった。4階建てのデパートには天体望遠鏡も並んでいたし、海岸通りにはレストランと土産物屋がたち並び、数多くの種類の日食グッズを売っていた。日食前日には各地からやって来た車が続々と海岸の空き地に集合、日食記念パレードも行われ、まさにフェスティバルであった。主催者側はLa Pazからバスで3時間程のSanta Cruzという村のバスケットコート（足場はコンクリート）を観測地として確保してくれた（天文ガイド9月号参照）。この街は皆既中央線に近いので皆既継続時間が6分50秒もあり、晴天率もLa Pazより高いという。とはいうものの、いくら晴天と言っても絹雲やちぎれ雲はどこであっても湧いて来るもの。ツアーの各人はSanta CruzかLa Pazかをそれぞれの思いで不安まじりに選択、私たちは3日間自分たちが目で見て感じた「La Pazの方が快晴率が高い」という判断からホテルわきの海岸に陣取ることにした。結果的にはほぼ半分ずつに希望が分かれたため、バスも1台ホテルに残ってくれることとなり、急に絶望的な雲がやって来た場合の移手段も確保される形となった（日食ではこれが大事!）。ホテルにはSky & Telescope の大部隊も宿泊していて、当日は私たちと入り混じって陣取る形となったが、プールサイドやBeach とスペースは十分だったため、混乱はなかったようだ。

La Pazの街は朝からこれ以上望めない程の完璧な快晴に恵まれた。第1接触の頃中央線に近い南方に絹雲が発生したが、La Pazの街までは北上して来なかった。日食が始まる現地時間10h23m頃、気温は約40℃（日なたは50℃以上）。それが皆既直前の11h44mには31℃まで下がり、涼しくなった。11h40m金星を肉眼で確認。日ざしがどんどん弱くなってゆく。天文ガイドのスタッフが流してくれた時報を耳にしながら緊張が高まる。46m30s海の向こうの西の空が夕焼け空に染まり、あちこちから歓声上がる。47m15sシャドーバンドが現れ、47m22sダイヤモンドリング、そして47m30s皆の拍手の中、コロナが天空に拡がった。星があちこちに見える。ピンクに輝く大きなプロミネンスが東西にひとつずつよく見える。そして53m59s西のプロミネンスのすぐわきから一条の光がさした。そのすぐ後の54m13s、拍手の中で再びシャドーバンドが現れ、日食のクライマックスは終わった。第4接触までの間、からからに渴いた喉をビールで潤しつつ、こんな好条件の皆既日食は一生のうちで2度と見られないだろうという思いが頭を行き来し、何度も感激をかみしめた。

最後に、Santa Cruzでは皆既後半は薄雲がかかったものの、最後までコロナを楽しめたとのこと。交通規制が敷かれていたらしく、道路はすいていたようだ。